

## 看護小規模多機能事業所みなみ みなみサテライト

# 2022年度 第2回 運営推進会議 報告書

参加者：出雲市健康福祉部高齢者福祉課 斐川高齢者あんしん支援センター  
住民代表 様、利用者ご家族  
斐川生協病院院長 医師、ひかわ生協常務  
看護小規模みなみ管理者 看護小規模みなみ課長 看護小規模みなみサテ  
ライトれもん課長 看護小規模多機能みなみサテライトとまと所長

### 議事

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、今回は書面会議を行いました。

#### I. 事業活動報告

- ① 稼働報告
- ② 活動内容
- ③ 事例報告
- ④ 質の向上
- ⑤ 他の事業所、医療との連携
- ⑥ 社会参加について
- ⑦ 苦情・要望について
- ⑧ アクシデント・インシデントについて

#### II. 質疑応答

- ・日々新型コロナウイルス感染症への対応お疲れ様です。サテライトとまとでゾーニングをしていますが居室から出てこられる利用者の方へどのような声掛けが有効かを職員で検討したとのことですが、どのような声掛けが有効でしたか  
回答)
- ・みなみ、サテライトのサービス提供状況は何月時点のものですか  
回答)サービス提供状況は、9月・10月・11月時点のものです。わかりにくい表記でしたので、次回より改善したいと思います。
- ・泊まりサービスを週7日利用されている方は特養等の待機者ですか  
回答)自宅では介護困難で、宿泊サービスを基本にご利用いただいています。住宅型有料老人ホームや、特別養護老人ホーム等の申し込みをされています。泊まりサービスを基本に利用される方の中には、環境調整を行い自宅へ帰ることができるようになった方もいらっしゃいます。
- ・とまとの事例について。コロナ陽性者対応、必要な方には感染対策をきちんととりながら、泊まり、訪問を継続されていたこと、認知症のある利用者への対応、職員自身の感染予防等いろいろ学びになりました。
- ・れもんの事例について。ご自宅で最期を迎えられた方の支援、ご家族の気持ちを大切にしながら関わっていらっしゃる様子が目に浮かびました。
- ・みなみの事例について。体調管理はもちろん、趣味活動、得意なことをしてもらおう等個別性を重視した関りをなさっています。同居家族の状況、変化にも柔軟に対応され、離れて生活されているご家族も安心されているのではないのでしょうか。
- ・コロナだけではなく、インフルエンザも流行しています。みなさんのお身体ご自愛ください。
- ・利用者の予後を知りながら、関わる職員さんの心境は如何ばかりとお察しします。大変な負担を背負っての介護だろうと思います。
- ・コロナという未知の病原体と今日まで3年付き合い、いまだに続く現実の中、職員さんの心労を察する時、唯々感謝するばかりです。
- ・継続しているコロナ感染症の経験は、今後の勤務に必ず役に立つと信じています。

# 2022年 2回事業活動報告

《看護小規模多機能事業所 みなみ》

## 1.活動報告

別紙参照

## 2.事例紹介

K氏・男性・70歳 介護度1

現病歴：脳出血（右片麻痺）、アルコール依存症、

家族状況：妻と二人暮らし

利用状況：火・木・土：通いサービス 月・水・金・日：昼・夕訪問サービス

ADL：右片麻痺あるも、杖歩行可能。左手で食事、絵も描かれる。

### 経過

肺炎の為入院。入院中に誤嚥性肺炎になりました。入院中から自宅へ帰りたい思いが強く、退院後みなみの通いと訪問サービスを利用しながら在宅生活を過ごしておられます。

奥様はパニック障害があり、夫婦で離れる時間を持つことも必要と判断から、デイサービス利用を始められました。また、奥様の介護負担を軽減する目的で、朝食はレトルト食品や、ゼリー等で済ませる事になっていましたが、奥様が頑張ってお朝飯準備をされていました。K氏は通いから自宅へ帰ると、長時間かけて墓参りに行ったり、近所の商店へタバコを買いに行ったり、酒屋でアルコールを購入した事もありました。畑に出て転倒し、妻より連絡があったこともあります。擦過傷程度の傷ですんでいますが、手指、手背、足の痛みもあり、足の上りが悪く、歩行状態が不安定な時がありました。6月、7月は畑に出て作業をする事が増えてきました。訪問員が昼食準備に伺うと、朝食を食べずに畑に出ておられることが増えました。奥様のパニック障害が悪化し、奥様は内服調整の為入院され、日中独居、気温の上昇、精神的にも気持ちが下がるなど重なり、食事摂取量の低下の為、体重減少が著名にみられました。体重減少に対しては、主治医に情報提供を行い、エンシュアHiが処方され、本人様も好んで摂取されています。

独居生活となってからは、夕方の訪問時に朝食も用意するようにしました。トロミをつける事を嫌がられますが、むせも考慮しながら離れて暮らす娘さんと連絡を取り、食べやすい食品や本人様の好きなものを用意して頂き提供しています。水筒にお茶を準備しましたが、コップに入れて飲まれる様子がない為、コップにお茶、アイスコーヒー、エンシュア、オロナミンCなど本人様が好まれる物をように準備しています。

涼しくなるにつれて、食欲も戻り体調も落ち着いてきました。利用開始当初は通い利用を拒否されるような発言もありましたが、現在は職員の誘いに拒否なく出かけておられます。絵を描く事が趣味で、画材道具を持参され、絵手紙やスケッチをされています。もともと社交的な方で職員との会話もユーモアがあり、レクリエーションを盛り上げたり、ムードメーカー的な様子も見られます。畑の管理も得意なので、みなみの畑もお願いすると、自宅から作業道具を持参され、草取りをしてくださっています。

K氏は自由に使えるお金を持ちたい、好きなものを買に行きたいと言われてますが、アルコール依存症もあり、お金をとタクシーに乗ってかいものに行くのでは、アルコールを購入するのではと娘さんは不安をもっておられます。むせもある為、タバコや飴もいけないと分かっておられますが、お酒よりタバコ、タバコより飴がいいのではと、用意されています。娘さんとも連絡を密に取らせていただき、臨機応変に利用できるサービスに助かっていると言っています。

自宅での畑作業や、絵を描くなど、ご自分の時間を大切にしながら、独居でも自宅で安全に暮らしていけるように、みなみの機能を活かし今後も生活を支えていきたいです。

### 3.質の向上

#### 職場目標

「ひとりひとりの Happy life を叶えます～We happy～」それに加えて本体のテーマを「みんながキラッと輝くみなみ」として、利用者様・家族様のやってみたい事や、職員のしたい事、専門職としての役割発揮をしながら、利用者様が一日でも長く自宅で生活が出来るように支えていきたいと思えます。

コロナ禍で、スタッフの体制も厳しい中、職場会議やミニカンファレンスをおこなっています。利用者様の情報を整理し、目標作成するためのシートを活用し、職種別の視点から見た情報なども共有しています。「利用者様を知る」ことで、みなみでの役割や出来ること、楽しみなどをみつけ共有したいと思います。

### 4.学習会

職員個々：学研 ナーシングサポート・eラーニング 介護：ジョブメドレーアカデミー

法人研修：感染拡大防止について

看護職会議：接遇について

職場会議：ターミナルカンファについて 酸素の取り扱いについて

### 5.他事業所・医療との連携

月に1～2回、多職種や、医療機関、施設等とミーティングを開催し、情報や今後の方向性などを共有しています。みなみサテライトれもん、とまととのミーティングや住宅とのオンラインミーティングを定期的に開催し情報共有に努めています。法人内での連携調整会議も行っています。

### 6.社会参加に向けた取り組み

新型コロナウイルス感染症により積極的な取り組みが難しい状況です。

事業所で利用者様と季節を感じる壁画や飾りつけを行っています。感染対策を取りながら、季節の話をしたり、旬の食材を使った食事などで季節を感じていただいています。また、イベントも計画していこうと思えます。

### 7.苦情・要望

ご家族様のご都合に合わせて、臨時利用や泊り利用をご利用されています。送迎時の対応をみんなが

同じように出来るように依頼がありました。送迎時のルールの徹底や、声掛け、利用者様のペースに合わせて欲しいなどの要望がありました。職場内で振り返りを行って対応の統一を図っています。

#### 8.インシデント・アクシデント

泊まり利用の方の食事の提供に間違いがありました。確認の仕方のルールを変更しています。

# 2022年第2回事業活動報告

《看護小規模多機能事業所 みなみサテライトれもん》

## 1.活動報告

別紙参照

## 2.事例報告

A氏 80歳代 男性 介護度4

現病歴：肺腺癌再発、アテローム血栓性脳梗塞

経過

2021年脳梗塞発症より嚥下困難感あり、誤嚥性肺炎を繰り返し胃瘻造設され経管栄養開始となる。その後、肺腺癌の再発あり、予後半年程度と告知される。本人の希望「家に帰りたい」、奥様も「家に一回でも帰ってあげたい」と希望され、注入や吸引等の対応もあることから、みなみサテライトれもんを2021年10月～利用開始となりました。

A氏は入浴のために通いサービスを利用したいと希望され、2回/週、通いサービスと注入・吸引介助に奥様は困難を感じておられた為、4回/週、訪問看護の計画を組みました。「春の桜を見る事は難しい」とDrより告知があった事から奥様も出来る限り家で見てあげようと、頑張って手技を獲得されました。日々が経つにつれて訪問看護の内容も注入や吸引などの指導よりも奥様の不安感などを聞く時間が多くなり、奥様からは「あんた達が来てくれて話をきいてくれるから見る事が出来ている。ありがとう」と日々話して下さいました。春を過ぎて、7月中に痛みが出現し、徐々に増強。痛みを緩和するための麻薬の使用開始となり、呼吸苦の出現から酸素療法の開始となりました。そのような変化もあって、最期をどこでどのように過ごすかも含めて家族と主治医と話し合いをしました。奥様から「家であなた達と一緒におじいさんを看てきて、今まで来れたから最期も一緒に家で看取らせて」とお言葉があり、一度は泊まりサービスを利用されましたが、その後は自宅へ帰られ、自宅で最期を迎えられました。

奥様は「おじいさんがあんな状態になった時に、泊まらせて貰って最期を考えた時にこのままだと後悔するなと思った。家に送って貰って家で息を引き取ってくれて本人も私も満足です。本当にありがとう」と話して下さいました。

看護小規模多機能だからこそ、本人の状態に対応するだけでなく、家族様の気持ちの動きに対しても対応できる事業所なのだと気づく事ができました。

## 3.質の向上

今年度の職場目標テーマはみなみ・とまとと共に「ひとりひとりの happy life を叶えます～We happy～」を掲げ取り組んでいます。また、れもんの職場目標テーマを決めて「3kyo(共感・共有・協働)利用者と共に暮らしを支えます」としています。

通いサービス中に、個別の ROM のメニューや歩行の訓練などをリハ職中心に行って

います。生活面のサポートだけでなく、機能面のサポートを多職種協働で取り組んでいければと思っています。

#### 4.学習会

職員個々：学研ナーシングサポート・e-ラーニング

法人研修：感染拡大防止について

看護職会議：接遇について

責任者会議：BCPについて

#### 5.他事業所・医療との連携

月1～2回 他職種や施設等とミーティングを開催し情報や今後の方向性などを共有しています。みなみ本体・とまととのミーティングや他事業所とのオンラインミーティングを定期的に行っています。

#### 6.社会参加に向けた取り組み

新型コロナウイルス感染症により積極的な取り組みが難しい状況です。

事業所で利用者様と共に畑に花を植えています。

#### 7.苦情・要望

・ご家族様から介護疲れにより通いや泊まり増やしの要望があり対応しています。

# 2022年 第2回 事業活動報告

《看護小規模多機能事業所 みなみ ST とまと》

## 1. 活動報告

別紙参照

## 2. 事例報告

2022年11月早朝、利用者様1名がコロナ陽性になられたと連絡がありました。前日に通い利用のされており、接触者リストを作成したところ、その内3名が濃厚接触者に該当しており、その方たちはとまと事業所内で泊っていただき、健康観察をしていくことにしました。同時にとまとでの通いサービスは休止、接触のあった利用者様は訪問サービスへ変更し、体調確認を開始しました。接触のない利用者様は本体事業所へ通いサービス利用へ変更、濃厚接触者への対応は決まった職員へ固定する対応を取りました。数日後、濃厚接触者の3名はコロナ陽性になりました。

その3名の利用者様みなさん認知症があり帰宅願望が強く、個室で過ごしていただくことが困難なため、事業所内のゾーニングを行い、フロアーへ出てこられても感染を広げないように工夫しました。

認知症で環境の変化に戸惑われている利用者様、感染により食欲がなく点滴をしながら過ごしていただく利用者様、接触者となり自宅で過ごしていただき、訪問サービスで対応させてもらう方もおられました。そんな利用者様を目の当たりにした職員は、苦しんでおられる利用者様、困っておられる利用者様に「何かできないのか、何もできないのか」と葛藤しながらも、防護服の着脱にも不慣れで、自分たちも感染してしまうのではないかと、自分の家族にも感染させてしまうのではないかと等々の不安やとまどいの繰り返しで精神的に落ち込みました。

そんな中、職員が感染してしまえば利用者様の療養生活が守れなくなると上司からのアドバイスもあり、再度防護服着脱、1行為1消毒、風の流れを考えながらの換気の重要性を確認し、アクシデントがあっても職員は防護服をしっかりと着用してからレッドゾーンへ入る事の徹底、レッドゾーンへは15分以内、随時交代をしながら、ケア内容や主治医への報告・相談、訪看など役割分担を見直し可視化して対応しました。

利用者様にとっては日頃と違う環境での生活でしたので、環境設定の方法など何度も変更しました。ゾーニングをしていてもお部屋から出て来られる利用者様へどんな声掛けが有効かなど職員みんな考え、利用者様の体調変化をアセスメントし、主治医への相談も密に行いました。

コロナ感染拡大を防止するため、日頃からサービス提供前の体調確認、事業所内の感染対策の工夫、職員は感染症対応の訓練しておくこと、コロナに感染した場合や家族に感染者が出た場合の対応方法を説明できるようにしておくことなど、この度のコロナ陽性者療養対応では、たくさんの学びがありました。

事業継続することが利用者様、ご家族の生活を守ることにつながると再認識し、感染対策をとりながら安心して在宅生活を送っていただけるように、看多機一同頑張っています。

### 3. 質の向上

看多機みなみの職場テーマは「ひとりひとりの Happy life を叶えます！～We happy～」更に、とまとでは利用者・家族様の『あげたい・ごげしたい』を叶えたい、をサブテーマにし、看護・介護の専門性の発揮や、利用者様・家族様の意欲を高める、ことに力を入れて運営しています。5S活動にも力を入れていきます。行事計画たて、利用者様の暮らしの喜びに繋がるように力を入れていきます。

### 4. 学習会・研修会

職員個々：学研ナーシングサポート・e-ラーニング

法人研修：感染防止拡大について

看護職会議：接遇について

### 5. 他事業所・医療との連携

月1～2回 他職種や医療機関、施設等とミーティングを開催し情報や今後の方向性などを共有しています。みなみ本体とみなみサテライトれもんとのミーティングやカンファレンスを随時行い、オンラインを活用して他事業所とミーティングを開催し情報の共有等を行っています。

### 6. 社会参加に向けた取り組み

- ・季節を感じて頂くために、カレンダー制作を利用者様と一緒に作り、行事計画を立ててお楽しみ会を計画しています。
- ・コロナ禍の中での社会参加は難しく感じています。

### 7. 苦情・要望

- ・キーパーソンの夜間の介護負担が大きく、泊りを増やして欲しい。
- ・高齢夫婦2人暮らしの為、主介護者の心的負担が大きく泊りを増やして欲しい。
- ・体が硬くなってきている、リハビリを希望したい。

### 8. インシデント・アクシデント

- ・内服薬の服用忘れがありました。服薬忘れが無いか確認するようルールを見直しました。
- ・かばんの持ち帰り忘れがあり、荷物置き場の検討、確認方法のルールを決めました。